



第19回理事会で挨拶する水落敏栄本会会長
= 2月21日、千代田会館で

第19回 理事会開催

令和2年度

事業計画等決まる

7月に代表者会議を開催

日本遺族会は二月二十一日、第十九回理事会を東京・千代田区の千代田会館で開催した。英霊顕彰運動及び処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法、今後の遺族会を考える特別委員会の中間報告、令和元年度本会諸会計予算の補正、令和2年度事業計画及び収支予算などについて審議がなされ、何れも承認された。

会議は午後一時三十分、定刻に開会、水落敏栄会長(参議院議員)が「組織の中心である遺児も平均年齢七十九歳、高齢化によるリーダーの不足から、支部における財源の確保に支障が生じ、組織の弱体化が見受けられる。二度と戦争をし

てはいけない、我々のような遺族をださない」という活動がどうなっているのか心配だ。本日、今後の遺族会を考える特別委員会から中間報告が提出される。内容を十分尊重し、理事各位の意見もいただきたい」と挨拶した。次に、議長に市来健之助副会長が選出され、特別委員長が選出され、改善運動の経過並びに今

後の運動方法での審議では、昨年の五月からそれぞれの運動の経過が報告され、何れも承認された。今後の運動方法については、令和2年度の事業計画に基づき推進することとした。

今後の遺族会を考える特別委員会からの中間報告では、各支部の実態調査をもとに、緊急を要する支部の財政の確立等について現状等の報告がな



全国戦没者遺族代表者会議
=平成26年6月、参議院議員会館講堂で

され、特に「支部の財政は、恩給、遺族年金受給者などからの会費収入により運営してきたが、会員の高齢化から会員の減少に苦んでおり、会費収入が減少している。経費節約に努めているが如何ともしがたい。」と支部の現状が報告された。このため本会には、「支部から本会への寄付金を減額するよう答申する」と報告されたことか

ら、理事会として、特別委員会の報告を重く受け止め、支部から本部への寄付金を減額することが了承された。また、本会役員定数の見直し案も答申され、了承された。

その他、令和元年度本会計予算の補正、令和2年度事業計画(要旨二面掲載)及び収支予算書についても、提案通り承認された。



令和2年3月15日
第831号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0044 東京都千代田区九段南一丁目六番一七号
千代田会館三階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨収集、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料/1,560円
(1年間12回 税金・送料込)

お申込み
日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521

理事会を開催

日本遺族政治連盟

日本遺族政治連盟は、二月二十一日東京・千代田会館で理事会を開催した。会議では、令和2年度歳入歳出予算案や令和2年自民党員獲得目標、二期参議院議員通常選挙が了承された。

14団体構成の 洗心懇談会開催

靖国神社など十四団体で構成する洗心懇談会の定例会が二月十九日、日本遺族会主催により千代田会館で開催され、畔上和男専務理事、盛川英治事務局長が出席した。関係団体を代表して畔上専務理事が挨拶し、その後、各団体より活動状況等について説明があり、意見交換が行われた。

「第十一回特別弔慰金」 請求手続きが始まります

請求開始は四月一日からです。書類の準備(戸籍の取得等)も四月一日以後となります。お気をつけください。

※支給対象者、請求期間、請求窓口については次号以降で詳細をご案内します。

声なき声

中国、湖北省武漢を中心として発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界に広がりをみせ、日本においても、感染者が千人(先のクルーズ船感染者を含む)を超えてしまった(3月4日現在)▼この新型コロナウイルスの影響で、本会が実施する遺児の慰霊友好親善事業にも影響を及ぼした。2月下旬から3月に派遣予定であったミヤンマー、マレーシア、ギルバート諸島、フィリピン、中国の4地域が中止となった。亡き父の慰霊巡拝を心待ちにしていた方には申し訳なく思うと同時に、早期の終息を願わずにはいられない▼あるコラムが目に入った。

「年々感じる。体の衰えの正体は?」。人は年を重ねるにつれ、できるだけ疲れない方法で行動しようと考え。例えば階段の上り下りという行為や、近くでもタクシーに乗ってしまうという、つらいながらも行動が、体力、とりわけ筋力の衰えをまねいているとされ、この悪循環が衰えの正体、とあった。加齢による衰えは如何ともしがたいが、身近な筋力アップとして、階段は「2階までは上がる。3階からは下りる」が最も身近で、かつ最高のトレーニングの場だという。若さを保ち、病に負けない体づくりになればと思ふ。一考を。

靖国神社と 刀剣

所蔵刀にみる大和魂

令和2年 遊就館特別展
3月14日(土)
〜
12月6日(日)

「休館日」6月24日(水)〜26日(金)
開催期間中、
一部展示刀剣の入れ替えがあります。

前期・3月14日(土)〜7月31日(金)
後期・8月1日(土)〜12月6日(日)

「開館時間」午前9時〜午後4時30分
(入館は開館の30分前まで)

「拝観料」●大人 500円
●大学生・高校生 300円
●中学生以下及び
常設展拝観者無料

遊就館は新型コロナウイルス感染拡大防止のため当面の間、休館しております。
再開につきましては左記へご確認ください。

靖国神社 遊就館

東京都千代田区九段北 3-1-1
電話 03-3261-1832
FAX 03-3261-0996
http://www.yasukuni.or.jp/

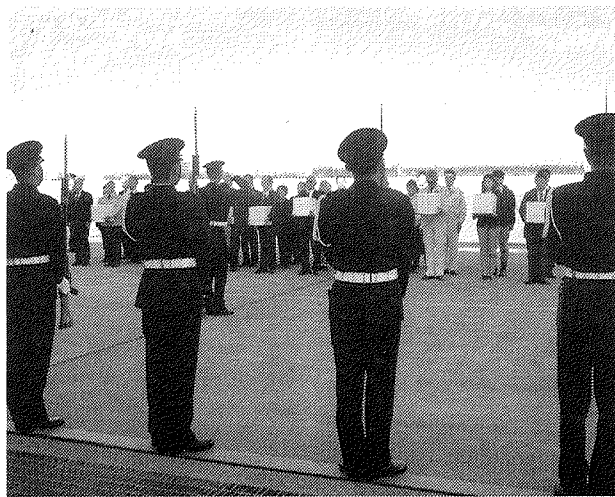
硫黄島から11柱奉還

狭い地下壕で掘削作業に従事

JARRWC

日本戦没者遺骨収集推進協会（JARRWC）主催による、硫黄島戦没者遺骨収集派遣団（第四回派遣）が一月二十九日から二月十四日の期間で派遣され、本会からは六人が参加協力を行い、硫黄島の壕等で収集作業に従事した。これまでに現地地で収集、仮安置されていた遺骨を含め十一柱を内地に奉還し、厚生労働省へと遺骨が引き渡された。

航空自衛隊入間基地に帰還した派遣団は、基地隊員に着剣捧げ銃（ささげ）の儀礼上最高位の敬礼で出迎えられ、都内の仮安置室に向かった。



航空自衛隊員の着剣捧げ銃（ささげ）の儀礼の出迎いで遺骨を奉持する団員ら＝2月13日、入間基地で

硫黄島遺骨収集派遣団二柱を収集した。作業で（第四回収集）は、第三回収集派遣団からの継続壕である、島北部の北観音と箱庭浜の間にあり、下壕と、旧コーストガード北側付近の地下壕について作業を行った。また、島内の外周道路等に点在する部隊陣地跡を示す道標の、島北部地区にある師団総出撃壕歩一四五工兵中隊の道標と、歩一四五衛生隊壕群の道標周辺から海八海岸との間と漂流木地区の地下壕群を集中的に作業し、二十メートル強に及ぶ地下壕から、万年筆等の遺留品多数と

令和2年度 事業計画(要旨)

1. 英霊顕彰運動

- 総理、閣僚の靖国神社参拝の継続・定着運動の推進
 - 国家の行為である戦争において、尊い一命を国に捧げ、日本の安寧と繁栄を願う英霊に対し、我が国を代表する内閣総理大臣が靖国神社に参拝し、英霊に尊崇と感謝の誠を捧げ平和祈願を行うことは、極めて当然のことであり、国家存立の基本である。特に本年は終戦75年の節目の年を迎える。総理、閣僚等には是非とも靖国神社に参拝されるよう要請するために、7月に全国戦没者遺族代表者会議を開催し、総理、閣僚、多くの国会議員の靖国神社参拝が定着化するよう陳情運動を展開する。
 - 環境整備 ア. 世論喚起 イ. 国会対策
- 国立の戦没者追悼施設建設構想の阻止
- 知事の護国神社参拝運動の推進
- 大東亜戦争の正しい歴史観の醸成
- 市区町村における慰霊祭等の実施
- 靖国神社等との連携
- その他 6月23日は神繩戦終結の日であり、「慰霊の日」である。本会と神繩県遺族連合会が毎年主催している「平和祈願慰霊大行進」には本部、支部一体となって参加協力する。特に、青年部については、7つの柱の一つの事業であることから、戦没者の孫、ひ孫等の積極的な参加を促す。

2. 戦没者遺族の処遇改善運動

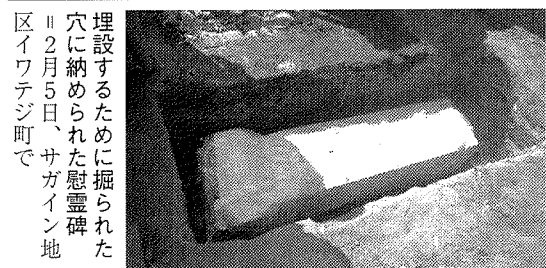
- 公務扶助料等の改善 高齢化著しい戦没者遺族にとって公務扶助料等は、生きて行くための重要な糧となっているのは周知の事実である。しかし国会において、野党議員から、公的年金引き下げに準拠すべきとの意見がある。戦没者遺族に対し支給される公務扶助料等の意義について、国家補償の理念で支給されるものであることを、国会議員に対し機会を捉え広く知らしめる努力を引き続き行う。
- 特別弔慰金の支給要件の改善等 今年4月、特別弔慰金受給者の継続手続き開始と、平成27年4月以降、特別弔慰金受給対象者となった方々の新規手続きが始まることから、受給対象者への広報に努める。さらには、令和7年（終戦80年）の特別弔慰金継続に向けた運動方法等について準備を進める。
- 戦没者等の妻に対する特別給付金の継続・増額 令和5年4月1日基準日の戦没者等の妻に対する特別給付金については、継続・増額できるような陳情運動等の準備を進める。
- 全国戦没者追悼式への国費参列者の拡大及び、式典内容の改善等 「全国戦没者追悼式に参列したい」との遺族が多いことから、国費参列者の増員を引き続き国に求めることにも、旅費算定基準の見直しを強く国に働きかける。また、式典は、今日の平和を見つめ直す好機でもあることから、児童、生徒の参列をより一層促す。

3. 組織の拡充強化

- 組織の拡充強化
 - 戦没者の遺児は、将来組織の中心的役割を担うことになる青年部を育成するために共に慰霊祭への参列、会費の徴収、機関紙の配布等々、積極的に支部の活動を行う。また、各種事業に戦没者の孫、ひ孫等と共に参加し、自らの戦争体験を伝え、「語り部」の育成に努める。
 - 支部は引き続き戦没者の孫、ひ孫等による青年部の組織化、そして組織の拡充強化に努め、リーダーとなる人材を育成する。また、引き続き孫、ひ孫、甥、姪等の実態調査を進め、魅力ある組織を構築することにより、新規会員の獲得に努める。
 - 女性部は自ら提言し結成された青年部の活動を引き続き支援するとともに自身の後継者の青年部加入に努める。また、女性部として相応しい遺族会活動、後継者の育成方法等を検討するために、今年も研修会を開催する。
 - ブロック会議を開催し、連携を密にするとともに、情報の共有化をはかる。さらには、ブロック会議に後継者である青年部員等が出席できるように配慮する。
 - 青年部は7つの柱となる事業を基本に、自主性を持って積極的に取り組む。また、後継者として自覚するためにも、本部、支部の事業に企画段階から参画し、その運営等にも携わる。また、青年部独自の活動を立案し検討するために、今年も研修会を開催する。
- 財源の確保
 - 本会は、唯一の収益部門である機関紙の販売強化に努める

ミャンマー・マンダレー等で民間建立慰霊碑移設等事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受け実施している海外民間建立慰霊碑移設等事業で、二月一日から八日の期間で、ミャンマーに事務局職員二人を派遣し、十一月の調査で維持管理が困難で不良と判定した慰霊碑四基の埋設を実施した。派遣団は、慰霊碑が建立されているマンダレー地区、サガイン地区の行政府をそれぞれ表敬訪問し、事業内容を説明したうえで、埋設を許可するよう申し入れ、了承された。慰霊碑の建立場所を管轄する町役場で埋設に関する覚書を締結した派遣団は、地域住民の協力を得て、マンダレー地区ガゾン町で二基、サガイン地区イワテジ町で二基を埋設した。また、サガイン地区モニワ市のモニワ日本人墓



埋設するために掘られた穴に納められた慰霊碑。2月5日、サガイン地区イワテジ町で

集積場になっており、モニワ市役所側としても今後の都市開発を計画する。果、慰霊碑周辺がゴミの

うえて慰霊碑の撤去を要望していることを踏まえ、令和2年度の事業で期間中に発症した場合の対応が懸念される等、勸業した結果止む無きの選択となった。実施中止となった地域は左記の通り。

- 遺骨収集事業中止
- ミャンマー○インド
- インドネシア
- ピスマーク・ソロモ
- パラオ諸島
- ピスマーク・ソロモ
- マリアナ諸島

本会の事業に於いて、今年も研修会を開催する。また、女性部として相応しい遺族会活動、後継者の育成方法等を検討するために、今年も研修会を開催する。

改めて、移設または埋設の対応を検討することとした。

事業計画(案)及び収支予算書(案) ③青年部役員改選④令和2年度青年部研修会の開催について。

女性部幹事会 1月29日 ①女性部実態調査の実施②1月30日開催の女性部長会議に付議する事項について。

女性部長会 1月30日 ①英霊顕彰・処遇改善運動の経過並びに今後の運動方法②令和2年度事業計画(案)及び収支予算書(案) ③令和2年度女性部研修会の開催等④女性部実態調査の実施について。

常務理事会 1月31日 第19回理事会に付議する事項について。

第6回今後の遺族会を考える特別委員会 1月31日 ①分担金の減額②本会役員定数の見直し③最終報告書のとりまとめにむけて。

第19回理事会 2月21日 詳細は一面に記載。

本会事業参加者の皆様へ 本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

友好訪問 三地域相次いで実施 慰霊善親 亡き父たちの冥福を祈る

日本遺族会主催の「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」の台湾・バシー海峡、東部ニューギニア、ビスマーク諸島地域が相次いで実施され、遺児たちが亡き父の眠る地に歩みを記した。一行は各地で慰霊追悼を行うとともに、小学校や病院を訪問し学用品や車椅子を寄贈、民間外交を行った。

台湾・バシー海峡
行った。翌四日に成田空
港を出発し台湾の台北に
到着した。



海没された亡き父たちに花を手向け冥福を祈る団員
= 2月7日、台湾海峡で

本と台湾の架け橋となっ
ている日本台湾交流協会
高橋事務所の方々を招い
て懇談会を開催し、意見
交換がなされた。

東部ニューギニア
東部ニューギニア慰霊
友好親善訪問団(団員八
人・事務局一人)は、二
月十二日靖国神社に参



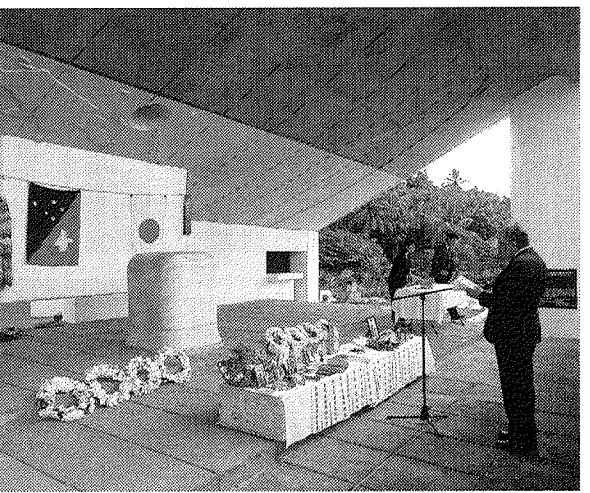
サワリン小学校を訪問し児童から歓迎される団員ら
= 2月17日、ウエワクで

集、結団式を行いその後、
本殿に上がり昇殿参拝
を行った。

同日、政府建立の
「ニューギニア戦没者の
慰霊祭を行う。十五日
には、東セビック州のウ
エワクに入り、十六日に
はブーツ、ダグア、ウエ

また、マダンで小学校と
病院を、ウエワクのサワ
リン小学校を訪問し学用
品や車椅子を寄贈し友好
親善を行った。

十七日には、チャー
ター機にて、ダンダヤ、
マリ、マブリック、マ
グエル、マンセップを機
上運送し亡き父に手を合
わせた。



「南太平洋戦没者の碑」前で全戦没者追悼式を挙
行 = 2月17日、ラバウルで

亡き父への思いを馳せた。
十七日には、ラバウル
にある日本政府建立の
「南太平洋戦没者の碑」
にて全戦没者追悼式を挙
行、ご英霊に感謝の誠を
捧げた。

また、友好親善では、
A班がマヌス島ロレンゴ
ウ総合病院へ、B班は
ニューブリテン島ラバウ

遺児の参加者募集

慰霊友好親善事業

募集要項は次のとおり。
▼時期及び地域 実施
概要参照

▼参加費 10万円

▼申込方法 在住する
各都道府県遺族会事務局
へ。参加者の資格審査に
当たり、申込書の記入項
目全てに記入を要するの
で、事前に申込用紙を取
り寄せていただき、記入
項目に不明な点(戦没者
の部隊等)があれば各遺
族会に相談し、条件を満
たした上で提出願いたい。

▼参加資格 戦没者の
遺児。令和元年度参加者
を除き、複数回の応募が
出来る。

なお、申込多数の場合は
選考となる。
また、巡拝地域や実施
時期等は、相手国や交通
機関等の事情で変更、延
期、または中止となる場
合があるので、予めご了
承願いたい。

令和2年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業実施概要

実施地域	実施時期	募集人員
1 旧満州	令和2年8月上旬	40人
2 旧ソ連	令和2年8月下旬	40人
3 西部ニューギニア	令和2年9月上旬	40人
4 ボルネオ・マレー半島	令和2年9月下旬	40人
5 トラック・パラオ諸島	令和2年10月中旬	40人
6 ソロモン諸島	令和2年10月下旬	20人
7 フィリピン(1次)	令和2年11月上旬	120人
8 マリアナ諸島	令和2年11月中旬	40人
9 ミャンマー・タイ	令和2年11月下旬	80人
10 東部ニューギニア	令和2年12月中旬	42人
11 ビスマーク諸島	令和2年12月中旬	40人
12 台湾・バシー海峡	令和3年2月上旬	30人
13 マーシャル諸島	令和3年3月上旬	20人
14 フィリピン(2次)	令和3年3月中旬	120人
15 中国	令和3年3月下旬	80人

実施地域	実施時期	募集人員
1 西部ニューギニア	令和3年1月中旬	36人
2 東部ニューギニア	令和3年2月中旬	36人
3 ミャンマー	令和3年2月下旬	36人

本会への賛助金のお礼

本紙(同面)でもお願
いしている本会への賛助
金につきまして、ご賛同
いただきました左記の方
々に対し、お礼申しあ
げます。

山田淑子、筒井五月、高
木フミ、高橋美香、新沼
良治、野田重敏、直井一
子、百田節子、磯部久美
子、齋藤静司、濱田徹、
小川佳子、白垣徹、津曲
熊市、古閑稔朗、野見山
正美、中本キヨ子、寺坂
悟志、シカダキサコ、タ
ナカヒロシ(以上、二月
一日から二月末日まで)

皆様からいただきました
賛助金は、本会が実施
する各種慰霊事業などの
活動費用に利用させてい
ただいております。誠に
ありがとうございます。

ル郊外のノンガ総合病院
へそれぞれ車椅子を寄贈
した。さらに、ラバウル
郊外のラルアナ小学校、
ブカ島のアヒラ小学校を
訪問し、団員が持ち寄っ
た学用品・衣類等を寄贈
し、友好を深めた。

十九日、所期の目的を
果たした一行は、それぞ
れの思いを胸に全員無事
に帰国した。

新型コロナウイルス
感染拡大に伴い
四地域を中止
戦没者遺児による慰霊
友好親善事業のミヤン
マー(特定地域)、マーシヤ
ルギルバート諸島、フィ
リピン(二次)、中国地域(二
月下旬から三月実施予定
分)は、新型コロナウイルス
感染症の現状を鑑み、
団員の健康・安全確保が
最優先と考へ二月十八
日、派遣中止となった。

日本遺族会への賛助金のお礼

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族援護、
慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動
のために賛助金を募っております。
本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いた
だきますようお願い申し上げます。

郵便振替
0013021694929
みずほ銀行 九段支店
普通預金 0080000000

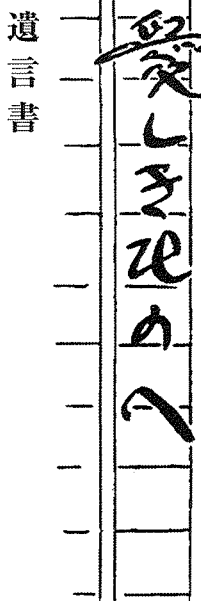
※口座名は「一般財団法人日本遺族会」です。二ホンソウカイ

第59回沖繩平和祈願

慰霊大行進 参加者募集

日本遺族会では、六月二十三日(水)に沖縄県遺族連合会と共催で「第五十九回沖繩平和祈願慰霊大行進」を実施し、参加者を募集している。この事業は、先の大戦で、一般住民を含む多くの尊い命が失われた沖縄戦を振り返り、砲弾降りしきる中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道程を行進し、平和を祈願するものです。

本会は沖縄県遺族連合会と共催で実施する「第五十九回沖繩平和祈願慰霊大行進」の参加者を募集している。全戦域の戦没者遺族が参加可能であり、家族で参加も歓迎する。特に孫・ひ孫等の青年部が多い。参加され、戦争の悲惨さ、平和の尊さを学び、語り継ぐ機会としてもらいたい。



遺言書

陸軍歩兵軍曹 齊藤 東一

昭和十三年十一月十一日
中華民国湖南省江山坪にて戦死
福井県南條郡神山村出身二十三歳

- 一、大君に命を捧げて出征出来る健全なる身体を造つて下さった父母様の恩は、征途直前にあたり益々うれし。
- 一、皆々、大君の恩、国家の恩、一時も忘れてはなりません。
- 一、再び故郷に足を入れぬ覚悟。
- 一、名誉の戦死をしたならば、墓碑は山根の田の隅に林さんの墓に並べて建てて頂きたい。
- 一、家の事は何も心配する事はない。唯皆々及び一族の繁栄と和楽を希望する。
- 一、私が戦死したならば、後は昭三にして頂きたい。
- 一、お父様お母様ありがたう、では行つて来ます。私は一人で皆々様の分も働いてきます。
- 一、一族の皆様ご健健でお暮しを願ひます。

天皇陛下萬歳
昭和十二年九月二日

齊藤庄左工門様
家族へ

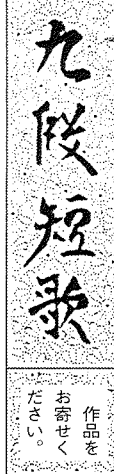
齊藤 東一

【令和二年三月靖国神社頭掲示】
(原文のまま)
愛しきものへ

参加者募集要項は以下のとおり。

- ▼期間 六月二十二日(月)〜二十四日(水) 二泊三日。
- ▼費用 三万五千円〜四万円程度。
- ※費用には宿泊代、食事代、バス借上げ代、添乗員費用、懇談会費用等が含まれる。
- ②参加人数により費用が異なります。また、自宅から沖縄の往復交通費、那覇空港から集合場所までの交通費は別途負担していただきます。

沖縄慰霊巡拝実施地図



戦没の父のひと世もかくありや戦争ドラマも最期は哀し
真なるや海没遺骨収集の記事握りしめ南海を偲ぶ

選者 安元 百合子

富士吉田市 荻沼 勝由

千葉市 石橋 嘉子

佐世保市 田中 暁

甲州市 三森 一雄

青森県 田中 恭子

岐阜市 安原 恭子

大阪府 高岡 千鶴

群馬県で日章旗返還

OBONソサエティ

本会が厚生労働省の委託を受け実施している「戦没者遺留品の返還活動」のOBONソサエティが調査し、東京都に



菩提寺で日章旗を飾り供養する遺族 = 2月8日、高崎市の東善寺で

所となる那覇市内のホテルまでの往復交通費は個人負担となりますので、各自お手配ください。

▼申込締切 五月中旬
なお、行進する道程は、糸満から摩文仁までの八・五キロとなります。

去年のこと戦死の有り様語る人赤子で父を見送りせしに
越谷市 石川美代子
愛知県 細川 幸子
例年の戦没者への慰霊祭遺族老いづき不安がつる
四日市市 杉田 禎照

桃の節句も過ぎ、桜もほころび始めました。戦後も七十五年たちましたが、戦争ドラマ、島人が歌う日本の歌や子らの笑顔、戦禍の伝承など、平和な日々の中にも戦争の影が残っています。

霞ヶ浦には大正末期に海軍航空隊が設けられ、戦時中に海軍飛行予科練習生(予科練)が養成されました。制服の七つボタンは七大陸・七大洋での活躍を期待したものだそうです。「若い血潮に予科練の七つの鈕は桜に、今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にや、でつかい希望の雲が湧く」(予科練の歌) 作詞 西条八十

地方だより

各都道府県遺族会で、実施された大会、研修会等は次のとおり。

▼長崎県 1月20日
令和元年度長崎県連合遺族会研修会(250人)

▼島根県 2月4日
役員合同研修会(42人)

▼徳島県 2月8日
第65回語り部事業(50人)

あなたの未来を変える、ステキな旅を。

東武トップツアーズ

TOBU TOP TOURS

東京法人東事業部

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-10-5 住友生命茅場町ビル2階
TEL.03-6667-0592 FAX.03-6667-0568 第2営業部 担当: 櫻井・箱崎

www.tobuoptours.co.jp

旅が、
未来の
わたしを
つくる。

www.tobuoptours.co.jp